



滋賀大学

報道関係者 各位

エヌビディア合同会社と産学連携推進の協定締結 AI・データサイエンス分野の向上目指して

このたび、滋賀大学データサイエンス・AI イノベーション研究推進センター（滋賀県彦根市、センター長：笹田 薫）は、エヌビディア合同会社（東京都、以下、NVIDIA）とAI・データサイエンス分野の向上を目的とした産学連携を推進するための協定を締結いたします。

日時：令和4年5月18日（水） 15時00分～15時30分
場所：滋賀大学彦根キャンパス講堂 多目的室 I
（彦根市馬場一丁目1番1号）

NVIDIA は画像処理用半導体（GPU）とソフトウェアを開発する会社であり、今日ではGPU の持つ高い並列演算性能が AI やデータサイエンスに広く活用されています。また同社は、同分野の教育や人材育成にも注力しており、高等教育機関向け教育キットプログラムを展開、ダウンロード可能な教材とオンラインコースへのアクセスを提供しています。

滋賀大学はその中の一つである「NVIDIA DLI データサイエンス教育キット」の日本語化に同社とともに取り組み、この取り組みをきっかけに、同社との連携をさらに深めるための協定を締結する運びとなりました。

NVIDIA の持つ先端技術やビジネスの知見と、本学の教育の知見を組み合わせることでさらなる教材を作成し、ジュニア向けから一般社会人向けまでを対象とした AI・データサイエンス教育を広く普及して行くことを構想しています。さらに、膨大な各種データを活用した社会課題解決のための共同研究や人材育成なども視野に入れ、産学連携事業を推進します。

◆取材に関するお願い

ご出席の際は、5月17日（火）正午までに、別紙「取材参加申込書」を本学広報課宛に FAX 送信いただくようお願いいたします。

(別紙資料)

○滋賀大学データサイエンス・AI イノベーション研究推進センター教授齋藤邦彦コメント

「滋賀大学は、AI の普及に大きな役割を果たしている NVIDIA と、データサイエンス教育の先頭に立つ滋賀大学・同センターがお互いの長所を生かし、相乗効果を発揮して、新たな教材や教育コースを開発することを期待します。同社の NVIDIA Omniverse といった最新の技術を活用した研究や実践的教育、地域・社会への実装をめざします。」

○エヌビディア合同会社 エンタープライズ事業本部 事業本部長井崎武士氏コメント

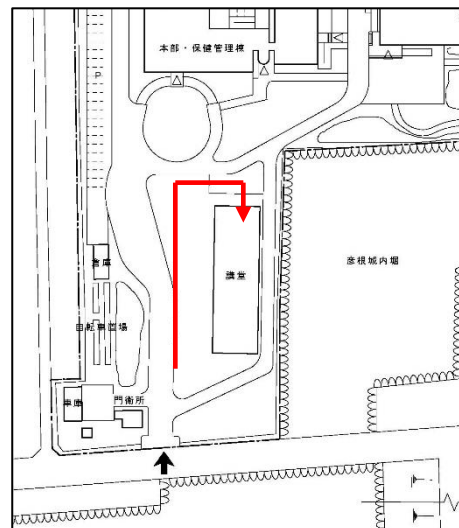
「AI の社会実装は今、あらゆる分野で急速に進んでいますが、そこで欠かせないのが理系、文系問わず技術を理解し、活用することができる人材です。研究の社会実装を目指す滋賀大学データサイエンス・AI イノベーション研究推進センターに NVIDIA のグローバルなリソースや知見を提供することで、日本のみならず世界のビジネス現場で活躍する実務家の育成に貢献したいと思います。」

「NVIDIA DLI データサイエンス教育キット」

データサイエンスの入門から応用や大規模データエンジニアリング、機械学習、さらにはデータサイエンスの文化的な背景や思想まで多岐にわたる内容のプレゼンテーション教材であり、日本のデータサイエンス教育に必須となるもの。滋賀大学データサイエンス学部の教員・学生が NVIDIA とともに日本語化に取り組み、日本語化された同教材は、今後 NVIDIA のウェブサイトからダウンロード可能となる予定です。教育機関に所属する教員・学生はこれらが無償で利用することができるようになります。(無償利用には教育機関に所属する教員の利用申請必要)

協定締結式会場

正門よりご入構のうえ、講堂裏手側の
入口よりご入場ください



締結式次第

日時：令和4年5月18日（水） 15時00分～15時30分

場所：滋賀大学彦根キャンパス講堂 多目的室Ⅰ

1 開会

2 出席者紹介

井崎 武士（いざき たけし）

エヌビディア合同会社 エンタープライズ事業本部 事業本部長

堀内 朗（ほりうち あきら）

エヌビディア合同会社 エンタープライズ マーケティング本部 本部長

北原 達正（きたはら たつまさ）

一般社団法人 e-kagaku 国際科学教育協会 代表理事

笛田 薫（ふえだ かおる）

国立大学法人滋賀大学 データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター
センター長

高柳 昌芳（たかやなぎ まさよし） 同 准教授

齋藤 邦彦（さいとう くにひこ） 同 データサイエンス学部 教授

村松 千左子（むらまつ ちさこ） 同 データサイエンス学部 准教授

3 ご挨拶

井崎事業本部長

笛田センター長

4 連携・協力に関する協定書への署名

井崎事業本部長

笛田センター長

5 連携・協力に関する協定 概要説明

齋藤教授（北原代表）

6 質疑応答

7 記念撮影

8 閉会